

子宮頸がん検診または乳がん検診を受けられる方へ

がん検診は多くのがんの初期には自覚症状がないため、定期的に受けることが大切です！！

自覚症状がある方は、検診を待たずに、早めに医療機関を受診しましょう。

検診は、がんの早期発見により、がんによる死亡を減らすことを目的としています。

受診される前に、検診がもたらすメリットとデメリットについて、ご理解の上、がん検診を受診してください。検診を受けるメリットは、早期発見・早期治療をおこなうことで良好な経過が期待できます。また、早期がんの他にがんになる前段階の病変が見つかることもあります。

一方でデメリットとして、がん検診でがんが100%発見できるわけではありません。また、がんの疑いと結果が出て、精密検査の結果がんでない場合もあります。

子宮頸がん検診：20歳以上

子宮頸がんは、子宮の入口にできる悪性腫瘍です。

若い年齢で発症するのが特徴で、20歳～30歳代の若い世代にかかりやすいがんです。

女性にできるがんで多く、早期に発見すれば比較的治療しやすく予後のよいがんですが、進行すると治療が難しいことから早期発見が重要です。

定期的に子宮頸がん検診を受けることで、がんになる前の正常でない細胞の「前がん病変」を発見することも可能です。

《 1次検診 》

問診、視診、内診、子宮頸部の細胞診（子宮の入口を専用のブラシで擦って細胞をとる検査）

※必要に応じて、子宮体部の細胞診検査を行います

《 精密検査 》

コルポスコープ（腔拡大鏡）を使って子宮頸部を詳しく見るほか、細胞診やHPV検査（子宮頸がんの原因ウイルスに感染の有無を調べる検査）などを組み合わせて行います。

《 気になる症状がある場合 》

月経以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則など、気になる症状がある場合は検診を待たず、すぐに婦人科を受診してください。

乳がん検診：40歳以上

乳がんは、乳房の中にある乳腺にできる悪性腫瘍です。

30歳代から増え始め、40歳代になると急激に発症や死亡数が増加します。

女性にできるがんで1番多く、日本人女性の11人に1人が乳がんにかかるといわれています。

初期のころは自覚症状はありません。

定期的に乳がん検診を受けることやセルフチェック（自己触診）を行うことで早期発見に努めましょ

乳がんのセルフチェックは月に1回行い、普段の乳房をよく把握しておき、異常があれば、迷わず医療機関へ受診しましょう。



《 1次検診 》

問診とマンモグラフィ検査（乳房X線検査）

《 精密検査 》

マンモグラフィの追加造影や超音波での画像診断、細胞診や組織診（病変部に針を刺して細胞や組織を採取する検査）などを行います。

《 気になる症状がある場合 》

しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液が出る、乳房の湿疹やただれなど気になる症状がある場合は、検診を待たず、すぐに乳腺外来のある医療機関を受診してください。

がん検診の結果「要精密検査」と判定された場合、必ず精密検査を受けてください。

精密検査の結果について、医療機関からの精密検査結果連絡票の返信がない方については、保健センターから受診確認の連絡をさせていただくことがあります。

八潮市では、検診の質の向上のため統計・調査研究等に健診結果が活用されることがありますので、ご了承ください。個人情報取り扱いについては、「八潮市個人情報保護条例」に基づき行っています。